

高津区自立支援協議会の現状 について



区の花「スイセン」



高津区の協議会が目指す
イメージ図(え?)
「三本の矢」作戦」

高津区は3つのグループで活動中、その経緯・・・

大前提として、協議会で私たちが目指す事
「障害を持ちながら地域で暮らす人たちの生き様、様々な経験を暮らしやすい街づくりに活かしていく」



相談支援の立ち位置で出来る事は？



- ①個別の支援をしていく中で、感じる地域の課題
- ②相談でなくても、当事者の経験、思いから、私達が気がつかない地域課題
- ③地域の課題を解決する道筋、実働部隊の必要性

上記、三つの視点から3つのグループが派生する。
具体的な行き先のない電車にしないため、5年後の到達点を決める

高津区協議会の現状(3つのグループ)

①【相談支援グループ】

制度や仕組みにとらわれない、生活のしづらさをキャッチできる相談の支援体制を検討する場

【行政の仕組みに限定しない区の相談支援のあり方を示す】

②【当事者・ボランティアグループ】

当事者だけでない、区民も共に集い、地域づくりを考える機会と場作り。※「ボランティア」の意味は当事者も区民も同じ土俵で出会う方便

【地域に貢献したい当事者・区民が集える場を作る】

③【課題整理グループ】

①、②で出てきた課題を検討する場、課題を活かすための仕組み、ルート作りを検討、提案、コーディネートする場

【地域の課題解消を1つ実現し、解決へのルートを1本つくる】

3つのグループの繋がり、5年後のイメージ



例題) ヘルパーが不足・使いたい日につかえない。

【こんな感じになるといいなあ】

②で出てきた課題を⇒③へ

③では施策や仕組みの課題は市協議会、制度で届かない「ちょっとこまった時だけお助け隊」が地域の中でできないか？⇒①

①で地域の中で同じ問題意識、何かやりたい人と課題を繋げないか？

各Gの3年目の登山状況

5年後にここで3G
が一つに出会う

現在3年目

課題G

ボラG

相談G



相談支援委員会

5年後の目標

【行政の仕組みに限定しない区の相談支援のあり方を示す】



1～2年目（H23, 24）の流れ

- 市から提示された相談支援再編計画を確認しながら、高津区の実状にそった相談支援体制について議論
- 市から説明を聞いたり地区割の必要性を伝える機会を設定した。再編実施に区の議論が追いつかないところがあった

※再編の内容が決定したことで、委員会としての取り組み内容を見直すことにした



新しい方向性(軌道修正)

- 相談支援の対象が3障害・児童・難病と広がり、年齢・障害種別にかかわらずコーディネートする事が大事であり、各ライフステージに焦点を当てた課題整理、それに即した制度・資源・情報を取りまとめる。

【5年後に相談員向けの高津区支援ブック完成を目指す】



3年目（今年度）の現状とこれから

- ライフステージに焦点を当てた困りがちな課題を整理し、今年度中に取りまとめた冊子の素案を提示。
- 次年度以降は実際に使用してもらい実用性をチェックしていく。
- 課題整理委員会との連動を意識した、出前講座における相談支援体制についてレクチャー担当。

課題整理委員会

5年後の目標

【地域の課題1つを解消し、解決へのルートを1本つくる】

1～2年目(H23, 24)の流れ

<1年目>

- ◆ 「区で出た課題整理票」の整理・検討・優先順位を決める作業
* ヘルパーの課題の多さから、次年度の重点項目に挙げる。

<2年目>

- ◆ ヘルパーの課題抽出方法
→宮前区のアンケート調査があり、それで見えないニーズは何か？
↓
高津区内ヘルパー事業所へ訪問聞き取り調査実施(顔の見える関係づくりも視野)
- ◆ 聞き取り調査結果を数値化・KJ法にて課題整理し、カテゴリー分類。
 - ①障害の相談支援の在り方・そもそも論⇒区の相談支援委員会に戻す
 - ②制度の仕組みの課題(単価・運営上のしぼり)⇒区として市への挙げ方の検討
 - ③情報不足・提供の仕方⇒区としてできることを区の協議会に投げ返す
- ◆ 3年目に向けて、上記3点の③に関して、協議会メンバーによるヘルパー事業所への「出前出張講座」の検討

3年目(今年度)

○「出前出張講座」実施に向けて、他の委員会とも連携を取りながら内容協議。今年度実施を目指す。

◆【現在内容協議中】

基礎講座:障害についての概論+相談支援事業
について(相談支援委員会と連携)

応用講座:メニュー表よりヘルパー事業所が聞きたい
テーマを選んでもらう。

*全体のメニュー表

区役割、身体障害、知的障害、精神障害、発達障害

3年目(今年度)

- 他の課題抽出についても継続して実施。
- ◆抽出方法を、会議録をとりながら課題をその場で書き留める方法に変更。
- ◆会議録から抽出された課題を課題整理委員が表にまとめ、3か月に1回整理。
- ◆全体には半年に1回提示する方法をとる。

ヘルパー事業所向け

「高津区自立支援協議会、出前講座 始めました！」

～冷やし中華じゃないよ～

ヘルパー事業所のご都合の良い日、良い場所へ、メニューからお好きな講師を無料で派遣します。

【2013年 秋号 講師メニュー】

障害	テーマ	講師	所属機関	連絡先
全障害	相談支援Cの体制と現状	相談支援委員会	※3G連動の仕掛け	

※講座開催時に前段として、かならずオマケでついてくる。 30分くらいの中身
⇒計画相談支援事業所を増やすための布教☆活動

【A】

【A】+【B①】、【B②】の2回1セット販売

身体障害	①身体障害者との関わり(概論) (30分) ②実際の関わりから (60分)	荒井	基幹型相談支援C	
知的障害	①知的障害の方との関わりのコツ (概論) ②実際の関わりから	田子	相談支援Cゆきやなぎ	
精神	①「障害特性、関わりの勘所」 (概論) ②実際の関わりから	高松	相談支援Cいまここ	044-819-4304

【B】

当事者・ボランティア 委員会

5年後の目標

【地域に貢献したい当事者・区民が集える場を作る】

高津区では

「地域に住む人、誰もが自由に集える場」



作りを目指しています！

障害を持つ方々を始めとし、さらに障害の有無や年齢、制度の「枠」を越え、

「高津区で暮らす様々な人々が、

自分の経験を『ちょっとしたお手伝い』として地域で活かせる場」

を想定。



「制度に無いけど、ちょっとした手助けがあったら、もっと暮らしやすくなるのに～」という声にお応えできるよう・・・

5年間の経過

目標

* ボランティア育成の方向で打ち出し、ボランティア育成専門グループを置く。

「ボランティアセンター(仮称)」を目指す。



⇒ 「当事者やその家族などが自由に集える場」

1・2年目

* 高津区社協と共催、ボランティア講座を開催。ボランティア団体への訪問。

3年目

* 「制度にないけど、ちょっとした助けがあったらもっと暮らしやすいのに」と当事者や家族の声あり、その聞き取り等始める。

具体的に検討 した全体像として :

「自分の様々な経験を

地域で困っている誰かに

『ちょっとしたお手伝い』で貢献できる場

* 名称も、より内容を理解しやすくする

* 当事者や家族、ボランティアの視点からの「場」を考えるため、構想から講座の卒業生設立の「エンゼルランプ」に参画を依頼し、共に検討始める。

ポイント！



高津区が考える「当事者参加」とは

当事者が、この「場」に集う時

【お手伝いをする人、受ける人】の

どちらにも当てはまる事。

うん！


障がいの有無に関係なく、

自分たちの経験を活かして初めて、

「街づくりへの参画」と言える！



ご清聴ありがとうございました。



当事者・
ボランティアG

相談支援G

課題整理
G

5年後に高津区三本の矢が一つになれるかどうか、
皆様よくモニタリングしてください。